

令和 7 年度 北区立稲付中学校 学校経営計画

令和 6 年度 4 月 1 日

校 長 名 取 秀 康

- ◎教育目標 ……**確かな学力・豊かな人間性・健やかな体**
- ◎学校経営ビジョン
- I 「生きる力の継承と発展」
 - II 「生徒の主体性」を重視した教育活動の重視
※1年：学ばせる 2年：チャレンジさせる 3年：任せる
 - III 「稲付愛・地域愛」に溢れた学校づくり



【育てたい生徒像】

- 自信に満ち溢れ仲間と協力して未来を切り拓くたくましい生徒 【自律】
- 自ら考え正しく判断して行動する生徒【自立】
- より良い学校、地域づくりのために主体的に行動できる生徒【愛校心・地域愛】

【目指す教師像】

- 教育への使命と情熱をもち、「愛」をもって生徒一人一人と接する教師【教育愛】
- 教職員が自らの専門性を高め、学校の教育力維持向上のために学び続ける教師
【自律・使命】
- 「チーム稲付」の一員としての自覚をもち、職層、年齢に関係なく「共に学び」
「共に助け合い」「共に高め合う」教職員集団 【自立・協働】

【目指す学校】

- 生徒が常に楽しさや喜びを感じ、達成感や成就感を得ることができる学校
- 生徒と教職員が互いに尊重し合い、挨拶、感謝、そして笑顔が溢れる学校
- 保護者や地域と共に築き上げていく学校



生徒一人一人が安心できる学校・学年・学級づくり

＜＜学校経営計画の重点＞＞

※赤字今年度重点項目

1 充実した授業と生徒の深い学び（生徒の喜びは教師の喜び）

- 稲付中授業スタンダード（授業の基本）を教職員全体で大切にしてい
- 「個別最適な学び」「協働的な学び」を視野に入れた基礎・基本の充実（課題解決的な学習、ペア・グループ学習、集団討論等→対話を重視）
- 教科の指導と生徒指導の一体化
 - ・自己存在感の感受を促進する授業
 - ・共感的な人間関係を育成する授業
 - ・自己決定の場を提供する授業
 - ・安全・安心な「居場所づくり」を配慮した授業
- きたコンを活用した協働・交流学习、調べ学習、家庭学習におけるきたコンの活用

2 生徒一人一人の将来を大切にした生活指導

- 社会の一員として必要な資質である基本的な生活習慣、礼儀や挨拶、道徳の実践力等を身に付けさせるきめ細やかな指導
- 些細な変化も見落とさないチームで対応する生徒指導（SOSが出せる支援）（挨拶を含めた休み時間等のコミュニケーションがすべての初期対応）
- いじめの未然防止・早期発見・早期対応に向けた組織的な取組の徹底
- 地域や関係機関、専門家との連携による健全育成の充実（薬物乱用教室、セーフティ教室、情報モラル教室等）
- 生徒が活躍できる学校行事等の充実（生徒の主体的な活動＝自律）

3 特別支援教育の充実 ―生徒一人一人を大切にした支援の充実―

- 生徒の困り感や保護者の不安に寄り添う支援
- 特別支援教育に関する教職員の理解と指導力の向上（インクルーシブ教育）
- 特別支援教育に対する校内体制の充実（校内特別支援委員会）、S C、S S W等や関係機関との連携（チーム学校としての対応）

4 道徳教育の充実による豊かな心の育成

- 教師と生徒、生徒相互の人間関係を深める道徳教育の推進
- 考え、議論する道徳授業、学校行事と関連付けた体験的な道徳授業の充実
- 生徒の地域行事等への積極的な参画と地域貢献意識の醸成
- ローテーション道徳

5 学校運営と校務改善の推進 ―チーム稲付―

- 子どもファースト（すべては生徒の成長のために）
- 親切・丁寧な稲中教職員（教職員同士、生徒、保護者、来客者等）
- 教職員も自律と自立を大切に（互いに学び合い、助け合う教職員集団）
- 学校の諸課題を自分事として捉え、学校経営参画意識をもつ。
- 子どもたちのための働き方改革の実践

「自律と自立」

～挨拶と感謝そして笑顔があふれる学校～

令和 7 年度学校経営計画補助資料

令和 7 年 4 月 1 日

北区立稲付中学校

校長 名取 秀康

1 稲付中授業スタンダード（授業の基本）

目標水準：H

- ①授業開始前に入室（授業準備、笑顔でコミュニケーション、1分前着席の徹底）
- ②授業前、授業後の挨拶を大切に。互いにリスペクトし、笑顔で挨拶
- ③説明は短く端的にする。（笑顔で生徒の顔を見て）
- ④一つ一つの活動にけじめをつける。（話を聴く時、板書を写す時、問題に取り組む時、話し合い等のへ始めと終わりのけじめを見届ける）
- ⑤説明は一方向にならないように生徒とのキャッチボールを大切にする。
- ⑥生徒のつぶやきを大切にする。
- ⑦生徒が「考える」を大切にする。（生徒が考えたくなるような発問の工夫）考える時間は長くもなく短くもなく。
- ⑧本時のメイン学習（主たる学習活動）が明確になるように。（ねらいと振り返りとのつながりを大切にする）
- ⑨振り返りまでが授業（何を学んだのか自分の言葉で整理させる）
- ⑩生徒が宿題を義務ではなく「やってみよう」「やらなくちゃ」と思える授業を実践しましょう。

2 挨拶について（つながる）

目標水準：H

稲付中学校では、明るく元気に挨拶ができる生徒を育ててきた。この伝統と歴史は今後も継承、発展すべきことと考えている。

（1）挨拶するときのポイント

あ…あかるく

い…いつも

さ…さきに

つ…ついでに一言

- ①相手の目を見て、明るく、元気よく、心を込めてあいさつをする。
- ②あいさつは欠かさずにする。・・・相手に好意的な印象を与えられる。
- ③相手より先にあいさつをする。・・・相手からの印象が良くなる。
- ④いつでもどこでもすべての人にする。・・・相手のため、自分のため、学校全体が明るくするため。
- ⑤ついでに一言（ついでに質問）・・・挨拶ついでに一言付け加えることで良好なコミュニケーションにつながる。「ついでに質問」なら効果倍増

（2）教員の姿勢、配慮

目標水準：M

①**教員が率先して生徒、保護者、来客へ挨拶をする。**

③一人でやってもダメ、一人がやらなくてもダメです。

3 丁寧なクラスづくり（耕す）

目標水準：H

（1）クラス開き

①座席表づくり

各クラスで空欄の座席表をつくり、直接名前を聞いてフルネームで記入する。漢字を教えてもらって自分で書く。2・3年生はフルネームだけでなくマイブーム等を聞くのも良い。

②担任紹介カード

担任の自己紹介をクイズ形式にし、班ごとで相談しながら回答する。
生徒からの質問有。時間は15分程度

（2）生徒とのコミュニケーション

①生徒とコミュニケーションがとれる機会を意図的につくる。

始業前に教室に入り、生徒とコミュニケーションを図る。無理に教員から声かけをしなくても笑顔で休み時間の生徒の様子を観察することで情報が得られることもある。日頃の生徒との良好なコミュニケーションがあればこそいざというとき生徒は相談する気持ちになる。

②「うまくいった時」が面談のタイミング

指導すべき生徒に対しては、その生徒が活躍した時や褒めるべきことがあった時に声をかけ指導する。

③気になる生徒は部活動等放課後の様子を観察する。

多面的な生徒理解につながるし、いざ指導すべきことがあった時に日頃の観察が功を奏する。

4 生徒たちの主体的な学校・学年行事等

目標水準：M

（生徒が活躍する学校・学年行事）

- ① スローガン決め（まずはどんな学校行事にしたいのかを考えさせる）
 - ② **企画の段階で生徒のアイデアを生かす。**
 - ③ 開会式、閉会式の司会（司会原稿の作成）
 - ④ 校長へのスローガン報告、反省報告
 - ⑤ **運動会では生徒実行委員主体の学年練習・全校練習の実施、また、生徒実行委員による学年種目決め（ルール含）や全級リレーのルール決め等**
 - ⑥ **生徒実行委員会による反省（次年度より良くするために）**
 - ⑦ 生徒実行委員会の反省を校長への報告
 - ⑧ 各分掌での行事についても生徒が中心となって実施する。
- ※「生徒主体」とは生徒に一任するのではなく、教職員はより良い活動になるように助言、指導や軌道修正をお願いします。

5 不登校生徒（登校したくてもできない生徒）への配慮

目標水準：M

（何かのきっかけがあれば登校できる生徒や不定期に登校するすべての生徒が対象）

（1）配布物の渡し方の確認

毎週金曜日保護者が取りに来るなど、具体的な提案をしてもよい。渡して終わりではなく配布物によっては説明が必要。参加確認が不要な行事等のお知らせも留意する（例：オリパラ報告会、講師を呼ぶ講演会、学

年行事など)

(2) 提出物について

何をいつまでに提出するのか丁寧に伝える。提出日前日に「明日、提出になっていますが、何かお困りのことがありますか」の連絡を入れる。特に、宿泊行事、校外学習、保護者会、三者面談、進路説明会、E S A T - J の申し込み、進路関係(都立出願)等

※3年生になると各教科の宿題や課題等の提出物が評価・評定に影響する。生徒、保護者によっては大きなクレームへとつながる。

⇒学校全体で各教科の提出物等のお知らせについては統一した方法で行うことを検討中(情報教育推進委員)

(3) 学年として

年間行事、月行事の中から、予想される配慮事項を事前に学年教員で確認する。

※当該生徒が興味・関心のあるお知らせについては個別で丁寧に行う。

学年全体でアンテナを！

(4) 学級内での配慮

委員会・係決め、運動会の種目決め、合唱コンクールのパート決め、席替え、校外学習・宿泊行事の班決め等は事前に本人の意志を確認し、その意志を保護者とも共有する。

(5) クラスへの教育(年次を越えて継続)

決してずる休みをしているわけではない。登校したくてもできない辛い気持ちや久しぶりの登校したときの不安な気持ちを汲んで接することができる学級経営をする。子ども同士の接し方については本人の意志を尊重してから行うことにも留意。

6 生徒指導の心得

○言って聞かせその気にさせ(端的にそして、インパクトのある説明)

○やさせてみて(時には何度も繰り返させ)

○褒めて(認めて)あげれば生徒は動く(達成感、満足感)

○しかし、だらけた時に「しかってやらねば」継続しない。(ここが勝負!!)

※五者の心得

- ・学者…教科の専門性(学び続ける教師こそ真の教師である)
- ・医者…生徒の身体、心の様子を見取る。
- ・芸者…魅了する。楽しませる。
- ・易者…現在の生徒の様子から近未来を予想し指導する。
- ・役者…演じる。(叱る、褒める)